

七小校長室便り

開校50周年

国立市立国立第七小学校

校長室便りNo.11 令和5年(2023年)1月23日

開校50周年記念行事を開催中です。



令和5年明け、1月も下旬に近くなりました。

時が過ぎるのがこんなにも早いのかとを感じる最近ではありますが、それは、やはり当然のことでした。本校の開校50周年の記念行事に向けた準備や取組を進めているのですから、時間がどれだけあっても足りないところです。

先週からは、開校50周年記念書き初め展が行われています。

子供たちが、令和5年の年初めの書写の学習として頑張った硬筆(1・2年生)と毛筆(3年生以上)によるものです。それぞれの学年の廊下に掲示されておりますので、感染症対策にご協力の上、ご来校ください。

また、校内には、開校50周年をお祝いする、お祝いの言葉と共に子供たちの作品も展示されています。職員玄関を入ったところには、カラフルに彩られた窓

の下に、3年生の子供たちの作品が展示されています。職員室前の廊下の窓のところにも、展示が続いて、ミニミュージアムになっています。

今、体育館では、展覧会の準備も進んでいて、本番に向けた機運を高めてくれています。

また、1階の1年生・2年生の教室前や廊下のところにも開校50周年のお祝いの掲示物があり、全校児童の思いとして学校の50歳を大切にしようとする取組があります。

高学年の子供たちは、お祝いの児童集会に向けた取組や展覧会の準備など、縁の下の力持ちとして、影

生・2年生の教室前や廊下のところにも開校50周年のお祝いの掲示物があり、全校児童の思いとして学校の50歳を大切にしようとする取組

があります。



の役割を果たしながら、国立第七小学校の高学年としての姿を示してくれています。

また、今日からは、開校50周年記念縄跳び週間としての取組が始まりました。それぞれの目標に向かって取り組みながら、目標を達成した子供には、開校50周年記念の賞状が渡されます。今年度にしかない賞状でもあるので、どの子にも目標を達成してほしいと思います。

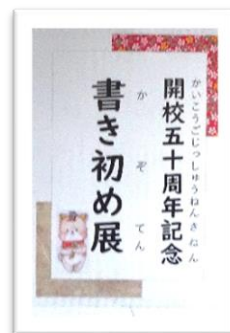
そして、今週末の27日(金)と28日(土)には、開校50周年記念展覧会を開催いたします。お祝いの気持ちがこもった作品や子供たち一人一人の個性豊かな作品が一堂に会して、体育館をアートミュージアムに変えてくれています。

多くの皆さんにご覧いただけることを願っているところです。

周年式典に向けた取組として。

先日の1月12日(木)にPTAの運営委員会がありました。

その際に、以前からお願いをしていました、周年式典のお手伝いの募集について、PTAの皆様にお話をさせていただきました。お陰様で10名程度の方からお声をいただきました。コロナ禍でもあり、まだまだ、予定が流動的などところもあって、ご無理のないところでのお願いとしました。



お忙しいところをご協力いただき、感謝に堪えません。誠にありがとうございます。

また、来年度の令和6年2月には、研究発表会を予定しております。その際にも、ご協力を賜りたいと思っております。毎年のこととなりますが、これからもPTAの皆様、保護者の皆様と協働して、子供たちの健やかな育成のために様々な教育活動を進めてまいります。

本年もよろしくお祈りいたします。また、来年度も引き続き、ご理解とご協力の程、重ねてお願いを申し上げます。

千客万来を楽しみに。

本校は、特別支援教育に関わる教室や学級が設置されている学校であることや学校と様々に関係されている方々や機関も多く、保護者や地域の皆様以外にも来客が多いところでもあります。

先週の18日(水)には、特別支援教室「はばたき」の運営や取組、授業などについて、東京都教育委員会の巡回運営指導員の方が来校され、面談をさせていただきました。本校の現状や状況等を詳しく説明させていただき、ご理解やご指導をいただきました。よりよい運営となるよう、これからも精進されるようにとのお話がありました。

また、20日(金)には、北秋田市教育委員会の教育長が本校を表敬訪問されました。

昨年10月下旬に、本校の主幹教諭が北秋田市立鷹巣小学校に派遣研修として、1週間お世話になりました。そのご縁を大切にすることを含めて、北秋田市の教育長からは、北秋田市と国立市のよりよい連携や鷹巣小学校との本校との学習における連携などについてお話をいただきました。本校としても、来年度以降の取組として検討しているところです。

このように、学校というところは、保護者や地域の方々、様々な関係諸機関の皆様等、多くの力によって支えられており、学校に多くの来客があり、多くの方とのご縁を結ぶとともに大切にしていくことが必要です。

コロナ禍によって、断絶されてきた人と人との縁を改めて結びなおし、千客万来な活気のある学校へと発展させていきたいと思う、この50周年式典のある年の初めとなりました。

【校長のつぶやき】 私の住んでいるところは、駅や坂のところ等、富士山がよく見える場所が多く、特に冬の良く晴れた日には、多くの方が富士山のイメージとする真っ白な雪をかぶった富士山がくっきりと見えます。

私がこれまで歌ってきた合唱曲にも富士山を歌った曲がたくさんあり、多くの歌人も富士を題材としています。例えば、詩人の草野心平作「富士山」は、歌詞を基に男声合唱曲や混声合唱曲として作曲されています。

その中でも『富士山 作品第肆』(さくひんだいよん)の詩は、富士山の存在を通して、静と動が表されていて、歌っていても楽しい作品です。一部抜粋で紹介します。



『少女たちは うまごやしの花を摘んでは 巧みな手さばきで 花環をつくる。
それをなわにして 縄跳びをする。花環が円を描くと そのなかに富士がはひる。
その度に富士は近づき。とほくに坐る。』

という箇所があり、子供たちが花を編んで作った花輪で縄跳びをしている様子から、その輪の中に富士の姿が入ったり、輪から外れるとドンと遠くに堂々とした富士の姿が見えたりするという、まさに私たちの心に豊かに響いてくる見事な表現の詩です。

私が、富士山を好きでいるのは、日本一の山としてだけでなく、これまで関わった合唱団や小学校や地域の名前に、なぜか富士と名前の付くところが多く、更には、「富士」という漢字を「不二」(意味：二つとない)と表現されることもあることを知ったことからです。

これまで私が座右の銘としてきた「桜梅桃李(おうばいとうり)」とも繋がることから、自分という人間は唯一無二の存在であり、誰にも自分でしかできないことがあるという自己肯定感を表現されていると思うからです。

この国立第七小学校は、富士見町にある学校です。縁ある地として、精一杯力を尽くしてまいります。

